

# The TENDAI journal

発行所：天台宗出版室  
発行人：出版室長 小林 祖承  
〒520-0113大津市坂本4-6-2  
天台宗務庁内 電話：077-579-0022(代)  
Eメール：T-Press@tendai.or.jp

令和6(2024)年5月1日 水曜日  
(毎月1日発行) 1部80円(消費税込・送料別)

天台ジャーナル



祖師先徳鑽仰大法会記念事業である比叡山延暦寺根本中堂大改修に寄付した天台宗内寺院の芳名簿奉納法要が4月2日、根本中堂で奉修された。祖師先徳鑽仰大法会事務局役員出仕のもと導師を務めた阿部昌宏天台宗宗務総長は、後世に残る大事業に本末一如の精神で報恩を示した浄業をご宝前に奉告し、工事の無事円成を祈念した。

## 根本中堂大改修への寄付者芳名簿を奉納 工事の無事円成を祈願

根本中堂大改修は、平成24年から令和5年3月まで執行われてきた祖師先徳鑽仰大法会の第二期記念事業として、平成28年に着工。令和9年度の完成を目指し現在も工事が鋭意進められている。

祖師先徳鑽仰大法会事務局では、この浄業完遂を目的に平成27年に特別寄付金勸募を開始。天台宗内全寺院住職と全僧侶に協力を呼び掛けてきた。令和6年3月8日までの寄付金は、総工費予算の3分の1にあたる金額15億6440万472円にのぼる。

全教区・北海道管内・4法流の芳名簿は奉書で包まれ木箱に納めて伝教大師御自刻の本尊薬師瑠璃光如来と不滅の法灯のご宝前に安置して奉修。導師の阿部宗務総長は「永く堂内に安置してその善業を讃えん」と表白に込めて奉告した。

法要後、阿部宗務総長は「工事の着工以来8年、この間に全国の天台宗寺院住職と僧侶、檀信徒の皆さま、そして有縁の方々からご懇志を賜り厚く御礼申し上げます。全



ての人びとの心の拠り所である『根本中堂の大改修事業』の完成に邁進して参ります」と感謝し、工事の円成へ決意を語っている。



全宗徒からの報恩心は未来に継がれていく

は、市場競争が激化するため、企業などは安価な労働力を求めて貧しい国々に進出、自国の産業の空洞化を招く▼必然的に失業者も増加するし、低賃金労働も増える。結果、貧富の差も大きくなる。富める一部の国際的企業と貧困に泣く大多数の人々、という構図になる▼この格差問題については今、世界が抱えている最大の懸案事項と化しているが、問題となるグローバル化はなにも経済分野だけではない。国境を超えて広がるのは気候変動の面でもいえることである。干ばつや豪雨の激しさは、以前に比べて異常といえる状態になっている。今では一年中世界のどこかで連関して起きているようだ▼ウイルスによる疾病の面で見られることだが、新型コロナウイルスが起きた世界的パンデミックはまさに典型的なグローバル化の例である。感染拡大の早さに驚く。広いようでも狭い地球の大きさというものを痛感させられた。もちろんコロナウイルスの感染問題は未だ収束をみないだけに、これからいつ地球規模のパンデミックが再来するか心配になる▼いかにこの世界が密接な関係で成り立っているか、思い知らされるばかりの現実である。

**極微**  
グローバル化した経済状況は、メリットとして商圏の拡大や生産コストの削減、技術革新などが挙げられる。一方、デメリットとして